

ご挨拶

ミュージックspaceつくば一同

本日は、『ミュージックスペースコンサートVol. I 現代音楽の夕べ』にご来場頂き、誠にありがとうございます。

私たちは、つくばを中心に活動する音楽家で『ミュージックスペースコンサート』を企画しました。

この、ミュージックスペースは自由なスペースで何かしら自分のやりたい企画があったら、それを提示し、この指止まれ方式でそれに乗りたい人が乗っていく。そんなやり方でこれからやっていこうと思います。今回は、鎌田、佐久間、堀部の三人が呼びかけました。

そういう場であると共に、継続的に良いコンサートを提供することで、多くの音楽ファンに愛されるコンサートにしていきたいと思います。

これからの活動にもぜひご注目下さい。

本日のコンサートは、土浦在住で国際的な活動を行っている藤田正典氏の初演を含めた曲に、つくば在住の二人の作曲家の作品、つくばにゆかりのある台湾の作曲家、蕭泰然氏の作品と、普段はあまり聴く機会のない意欲的なプログラムを組んでみました。

今回、栃木県の大田原市より太鼓集団『与一太鼓』の皆さんが賛助出演ということで演奏会に花を添えてくださいます。

現代音楽は難解なものという先入観をもたれている方も多いと思いますが、あまり難しく考えず、気持ちをフリーの状態にして聴いてみてください。もし何かしら、皆さんの心に残るものがあれば幸いです。

では、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

PROGRAM

- 堀部 一寿(バリトン)鎌田 えみ子(ピアノ)
「秋の日」 作詞 中原 中也 作曲 真下 麻里子
「かもめ」 作詞 室生 犀星 作曲 真下 麻里子
- 山根 尊典(フルート)小崎 光洋(ピアノ)
Ode IV 作曲 小崎 光洋
- 和田 仁(ピアノ)
ピアノのためのレクイエム 作曲 小崎 光洋
- 吉野 薫(ヴァイオリン)
ヴァイオリンのためのレクイエム 作曲 小崎 光洋
- 吉野 薫(ヴァイオリン)鎌田 えみ子(ピアノ)
Just for you 作曲 蕭 泰然

Pause

- 吉野 薫(ヴァイオリン)鎌田 えみ子(ピアノ)
ヴァイオリンとピアノのための「瑠璃色の星」 < Lasurblauer Stern > -1985-
作曲 藤田 正典
- 佐久間 和子(メゾ・ソプラノ)大島 博(テノール)鎌田 えみ子(ピアノ)
「かげろふ日記」---第一章・愛と不信のはざまより--- 作曲 藤田 正典
- 佐久間 和子(メゾ・ソプラノ)堀部 一寿(バリトン)
木城みゆき・鈴木明子・佐久間響子・飯岡(踊り)
「Niraya」-空海著・秘密曼荼羅+住心より-(声のための作品) 作曲 藤田 正典
- 与一太鼓(和太鼓)
「与一太鼓」~ 第一楽章「ひばりが原太鼓」 第四楽章「与一出陣太鼓」
「那須野が原三章」~ 第二楽章「まつり囃子」 作曲 藤田 正典

作品解説(作曲者自身による)

「秋の日」

この曲は、1981年11月、私が高校3年生の秋に、完成しました。

翌年3月の東京学芸大学作曲科の受験提出作品として作ったもので、もう一つ、同じ中原中也の「春の日の歌」にも曲をつけて2曲を提出しました。

作るきっかけとなったのは、中原中也の詩集を高校の図書館で見つけ、その詩の美しさ、言葉の持つ不思議な魅力と、何とも言えない色っぽさに惚れこんでしまったのです。

ですから、曲も自然と浮かんで来て、でも、一応イントネーションや間の取り方が、この詩本来のものがくずれないように配慮して作りました。自分でも大好きな曲の一つです。

「かもめ」

この曲は、1983年の秋、大学2年生の作品です。

夏が終わり秋が来る頃、少し寂しい気持ちになったとき、ちょうどこの詩と出会いました。

当時、ジョー・サンプルなどのジャズ・ピアノを好んで聴いていたので、メロディや和音の使い方に於いて、ややジャズの影響が出たと思います。

「Ode IV」(フルートとピアノのために)

調性への接近がこのころ意識されていたように思います。学生時代の終わり頃からの室内楽作品にはいずれもOdeというタイトルが付いておりましたが、これは神をたたえる古い詩の形式を示す言葉です。曲の形が、そうしたことをなぞっているわけではありませんが、作曲する中で、自己を超越するような大きな何物かの傍らにいる“感じ”を抱き始めてもいたように思います。初演してくださったフルーティストの太田哲広さんは、後にご自分の演奏会にこの作品を採り上げられたときに、「ロマンティックな作品」と解説しておられました。

「ピアノのためのレクイエム」

「ヴァイオリンのためのレクイエム」

この2作品は、95年のつくばアルスホールにおける個展のために作曲されたものです。この2作品に歌曲「愛について」(会田綱雄詩)を加えた3作品をレクイエム3部作という風に意識して作曲しました。“レクイエム”というタイトルが示すように、この作品はあるピアニストとの訣別にうながされて書いたものです。死によって肉体から引き離され、しかし輝き止まぬ精神の光を思いつつ作曲しました。

「Just for you」

台湾で人気の高い作曲家、蕭泰然のヴァイオリンとピアノのための小品。

蕭泰然は、長くアメリカに滞在し、ヴァイオリン協奏曲・ピアノ協奏曲・チェロ協奏曲などの大規模作品を次々発表する傍ら、台湾の伝統的なリズムや旋律を使った抒情的な魅力ある小品を数多く作曲している。この<Just for You>は彼のアメリカ滞在の影響が感じられる作品。ゆったりとしたリズムの中で甘く美しい旋律が心に沁みいるように奏でられる。ピアノ伴奏の細やかな響きに祖国台湾への郷愁の思いが感じられる。

つくば市に住む蕭氏の姪、井上理那氏の楽譜提供・協力により、本日のコンサートで紹介する。

ヴァイオリンとピアノのための「瑠璃色の星」<Lasurblauer Stern> -1985-

星は、遠くにありて美しくそして妖艶に光り輝き、人はそれを見つめて心にそして魂に閃きを感じる。私は星に因むシリーズとして、すでに「星の軌跡」、「星のかなたへ」、そして「瑠璃色の星」と作曲してきたが、しかしそれらは星に対する単なる憧れや、また美しくきらめく星を描写的に表現しようとしたものではない。それらはあくまでも、美しくそして妖艶に光り輝く星達に私自身の感性が刺激され、その私自身の内的な精神作用が基盤となり作曲されたものである。

この曲は、Vn. 小林健次、Pf. 一柳慧両氏により初演された。

「かげろふ日記」 ---第一章・愛と不信のはざまより---

(ソプラノ、テノールとピアノのための) -1998-

この曲ソプラノ、テノールとピアノのための「かげろふ日記」では、平安時代における貴族の妻の生活が、夫を愛する程その内面ではどんなに苦渋と悲劇に満ちたものであったか、一人の純心な女の切なく激しい魂の叫びを、ソプラノ（作者）とテノール（兼家）で対話するように歌い、愛と苦悩、そして矛盾する様相を表現しようと試みた。

「N i r a y a」-空海著・秘密曼荼羅+住心より-（声のための作品）

この曲のタイトル「n i r a y a」は、サンスクリット語で地獄を意味する。空海の思想書・秘密曼荼羅+住心の第一段階の教えによれば、人間は三つの悪しき行為（身体、言葉、意）により、三悪道（地獄、餓鬼、畜生）の世界にいたると言われている。今回この曲では、その教えを根底に三悪道の様相を交えながら、ある面声明として、またシアターピースとしての要素も取り入れ、表現の拡充を図った。

「与一太鼓」より・第一楽章 「ひばりが原太鼓」

第四楽章 「与一出陣太鼓」

「那須野が原三章」より・第二楽章 「まつり囃子」

この和太鼓のための音楽「与一太鼓」が那須野が原三章は、源平屋島の戦いで扇的を射落した那須与一にまつわる挿話に基づいて作られた。が、それは単に物語りの描写としてではなく、那須地方の豪族であり源氏の武将であった与一の勇猛果敢で浪漫溢れる精神性を音楽としてとらえ、表現しようとしたものである。

また曲全体の土台においては、大衆性と芸術性を多面的に共存させ、バランスを崩さないよう作曲上十分に注意を払いながら構築し、音楽的流れに一貫性を与えた。

作曲家プロフィール

真下 麻里子

1982年、東京学芸大学教育学部音楽科作曲専攻に入学。

日本の電子音楽の第一人者、住谷智氏に師事。在学中の作品としては、「フルートとピアノのためのソナタ（3楽章）」「マリンバとピアノのための小品」「金管五重奏のためのR q m.」「W i n d o f M a y -ヴァイオリンとピアノのために」

結婚後、転勤を経て、平成5年よりつくば市竹園在住。

近年の作品……「H e r e I a m」（ピアノ小曲・1990年）「隕石に寄せて」（ソプラノのピアノ・1995年）「たにし長者」（メゾソプラノと語りとピアノ・昔話の子供向け小品・1998年声楽家佐久間和子氏の依頼による）

小崎 光洋

1958年生まれ。桐朋学園大学音楽学部作曲家卒業。作曲を末吉保雄、川合 くに子にピアノを末吉真佐子、森安耀子に師事。

1977年より、グループゾーン、ダウエルクライスなどの同人会を通じて室内楽作品を定期的に発表。

劇団「音楽座」を中心として劇音楽の分野で活動。桐朋学園子供のための音楽教室水戸分室などにおいて、教育活動に師事。現在、茨城県立取手松陽高等学校音楽科および聖徳大学附属聖徳高等学校音楽科非常勤講師。小崎音楽教室TONIKAを本拠としてつくば、水戸でソルフェージュ教育活動を行い、平行してつくば市として活発な創作活動を展開している。

代表作品は、エグゾード、オード、協唱、レクイエムの各シリーズの室内楽作品、ヴァイオリンとオーケストラのためのオード、ミュージカル「闇夜の祭り」（劇団音楽座作品）、歌曲「愛について」など。つくば市安食在住。

蕭 泰然 (しょう たいぜん)

Tyzen Hsiao started piano studies at the age of five with his mother, and his first concert followed two years later. His music and academic studies were at Normal University in Taipei, with graduate studies at Musashino Music Academy in Tokyo. He began his music career in 1967 as performer, composer and associate professor at National Normal University in Taipei and Tainan Theological College.

Hsiao arrived in the United States in 1977 and continued composing and teaching and received his Master Degree in Composition from California State University of Los Angeles in 1987. He received the Science of Humanities Award in 1989 from the Taiwanese American Foundation and won the first prize in a composition contest in 1990.

As a teacher, composer and conductor, Hsiao has engaged in many activities to raise America's awareness of Taiwanese Music and Musicians to a higher level. His integration of Taiwanese musicians into American cultured life has been truly outstanding. Hsiao's composition "Psalms of The Taiwanese" received special recognition by the Taiwanese - American Professor's Association.

A commission from the Taiwanese United Fund was used to compose three concertos: Violin concerto, Cello concerto and Piano concerto. His Violin concerto in D. Opus 50 received its world premiere on Nov. 13 - Nov. 15, 1992 in San Diego and his Piano concerto is scheduled for world premiere in Vancouver by the Vancouver Symphony Orchestra on April 10th, 1994.

藤田 正典

1946年栃木県に生まれる。1967年より作曲を故入野義朗に師事。

1970年日独現代音楽祭作曲コンクール第1位入賞。同年ベルリン市の奨学金を受け、ベルリン国立音楽大学にて4年間作曲をイサン・ユンに師事。在独中よりムジークプロジェクト・ベルリン、バンジャールグルッペ・ベルリン、そして日本のTOKK・アンサンブルなどに在籍し、ヨーロッパのフェスティバルを中心に日本はもとよりアメリカ、東南アジアでも数多く作品が発表されている。

また、1975年にはスイス国際作曲コンクールに入選し、クンストラハウス・ボスヴィルに3ヶ月招聘される。帰国後、故入野義朗を中心とした東京音楽企画研究所に所属。同研究所主催のパンムジークフェスティバルでは、作品発表と共にオーガナイザーとしても活躍。

1982年には「ピアノとオーケストラのためのオーロラ IV」が第1回入野賞を受賞。小沢征爾指揮、木村かをりピアノ、新日本フィルハーモニーにより東京文化会館大ホールで初演され、さらに翌1983年2月23日には、ニューヨークのカーネギーホールでガンサー・シュラー指揮、木村かをりピアノ、アメリカン交響楽団で、再演された。

また、「ピアノと打楽器のための風波」は1982年にドイツ大使賞を受賞。

1985年には ベルリン芸術家プログラム・DAADより半年間招聘される。

1989年、第10回草津夏季国際音楽フェスティバルに招待作曲家として招かれ藤田正典作品個展を開く。

1993年には、第43回ベルリン芸術週間で、石井真木指揮、新交響楽団により、ベルリンフィルハーモニー・ホールに於いて、オーケストラのための「Samusara」が初演された。

1998年長野オリンピックで、入・退場行進曲を担当。

1999年8月及び9月には、ゲート生誕250年祭にワイマールとベルリンでファゴット四重奏のための「ゲートの詩に寄せて」が初演された。土浦市在住。

演奏者プロフィール

佐久間 和子 (メゾ・ソプラノ)

東京音楽大学声楽科卒業。尾坂尚子、太刀川悦代、毛利準氏に師事。オペラでは、「魔笛」「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」「ディドとエネアス」等に出演。又、オペラガラコンサートにも数多く出演。「メサイア」「グロリア」又、多くのミサ曲などの宗教合唱曲のアルトソリストとしても、高い評価を受けている。つくば市において、リサイタル、チャリティーコンサート、小・中学校コンサートの開催や公民館講座の講師を務めるなど、地域の音楽振興にも力を注いでいる。つくば児童合唱団<天使の森>、女声合唱団<萌>、<コールさくら>等の合唱指揮者としても活躍中。つくば市在住。

大島 博 (テノール)

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院博士課程学位取得終了。芸大では渡辺高之助、高 丈二、中山悌一、原田茂生の各氏に師事。1986～88年、ミュンヘン音大でE. ヘフリガーに学ぶ。90～91年、D. フィッシャー・ディースカウに師事。1991年同氏の推薦により C. アバド指揮のベルリンフィル・ジルベスターコンサートに出演したのをはじめ、バッハ、モーツァルトを中心とした宗教曲、さらにドイツリートの特化として活躍している。

堀部 一寿 (バリトン)

東京コンセルヴァトアール尚美教育科及び研究科卒業。声楽を、西義一、沢木和彦、F. アルバネーゼ、B. ダルモンテ、M. アルジェントの各氏に師事。在学中にオペラシアターこんにゃく座と出会い、1年間研究生としてオペラを学ぶ。その後、イタリアミラノに1年間留学。帰国後、多数のオペラに出演する傍ら、自ら、ミュージカル公演、野外でのオペラの公演を企画する。

最近、つくば音楽団体交流協議会会長として毎年、「ムジカフェスタディつくば」を開催するとともに、つくば文化の風おこし協議会会員、つくば国際文化都市フォーラムの企画運営委員などを通し、地域文化発展に尽力している。平成元年よりつくば市稲荷前に、ピアッツァ・アルテ音楽教室を開校。つくば市在住。

山根 尊典 (フルート)

桐朋高校音楽科在学中よりプロオーケストラに参加。ポートワシントン音楽コンクール第1位。ジュリアード音楽院卒業後、セントルイス音楽大学講師、熊本音楽短期大学特別教員を勤めた。セントルイス交響楽団、メトロポリタン歌劇場管弦楽団メンバーと定期的な室内楽公演の他、「Radical & Magical Duo」「Piacere」のメンバーとして演奏活動を行っている。現在つくばに本拠を置く Philharmonic Stella 及び Passion Flutes Tokyo の音楽監督、茨城フルートコンテスト審査員。DMP より CD 「Recital Live」をリリース。

吉野 薫 (ヴァイオリン)

7才よりヴァイオリンを始める。久保田良作氏に師事。桐朋学園大学付属音楽教室を優等賞で卒業。1974年同高等学校音楽科、1977年同大学音楽学部に入學。在学中よりソロ、室内楽、オーケストラ、テレビ、ラジオ等で幅広く活動を行う。1979年よりザルツブルグにてシャンドール・ヴェーグ氏に師事。帰国後はあらゆる分野で活動。現在桐朋学園音楽教室講師。つくばでは1986年より教室を構え後進の指導にあたっている他、ピアノの鎌田えみ子氏らと定期的にコンサート等を行っている。

和田 仁 (ピアノ)

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業、井口秋子氏に師事。1982年西日本音楽協会賞受賞。1985年北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトに留学、F.S. シュヌーア氏に師事。1987年スイス、チューリッヒ音楽院マイスタークラスに留学、H. フランセッシュ氏に師事。1990年同音楽院卒業。現在、聖徳大学非常勤講師及び、桐朋学園大学附属子供のための音楽教室宇都宮教室講師。つくば市在住。

鎌田 えみ子 (ピアノ)

国立音楽大学ピアノ科卒業。賀集裕子氏に師事。ウィーンにてアレキサンダー・イェンナー、エリカ・ディヒラー・セドラチェックの両氏に師事。ウィーン国際音楽協会主催のコンクールで優勝。ベートーヴェン特別賞を受け、オーストリア各地で演奏会に出演。東京・つくばを中心に各地でリサイタル活動を続けるほか、新星日本交響楽団・新日本フィルハーモニー交響楽団・シティーフィルハーモニック等のオーケストラと共演。ソロ活動とともに歌曲伴奏・室内楽の分野でも活躍。つくばでは室内楽を中心に数多くのコンサートを開き、地元在住の作曲家の作品紹介にも力を注いでいる。つくば市在住。

与一太鼓 (和太鼓) 栃木県・大田原市

「与一の里・大田原」には、那須与一宗隆公に関する史跡や言い伝えが数多く残されています。「与一太鼓」はそれらの中から五つの言い伝えを選び作曲されております。

平成5年7月に生ぶ声を上げ、その間、地元をはじめ、各地のイベントに30回以上も参加する等、一人でも多くの方に「与一太鼓」の良さを知って貰うため努力してまいりました。本日も精一杯演奏いたしますので、弓の名人「那須与一」をしのびながら耳を傾けて頂ければ幸いに存じます。